

当別初の青年林業士に認定



石田



Ishida Seitarou

清太郎さん

環境を良くするためにできることを

森のことはまだまだ・・・

家業は農業！高岡で生まれ育って、父の農業を手伝い、その面白みがようやくわかってきました。実家の前には石田ファーム直売所を設けて300種類もの新鮮野菜を売っています。うちに来るお客さんはほとんどがリピーター。一度食べた野菜の味を覚えてくれて、また来てくれるのは嬉しいですね。そんなお客さんは「ここは空気が違う。だからおいしい！」なんです。田舎に足を運ぶことが気分転換になる。都会に住んでいる人は思ったより敏感ですね。

美味しい空気ってことは環境がいいってことです。都会の人に当別の環境が素晴らしいと感じてもらうには「きれいな空気」は絶対の条件です。空気を浄化する森の整備は重要なことですが、木

ISHIDA

材のほとんどが海外から輸入されているためか、今は林業という職種自体、ほとんど聞くことがありません。しかし、地域の空気を良くするためにも森をきれいにしなければならないと感じ始めたんです。うちには人工林、天然林合わせて11haの森があります。この森がきれいであれば、直売所で野菜を買っていくお客さんにも納得してもらえるわけです。

青年林業士に認定されたわけですが、森林資源の管理を行う後継者に指名されたということで、この上には経験を積み、林業振興を実践している指導林家と呼ばれる人たちもいます。私の場合、森や木の勉強はこれから

なんです。当別で初めての認定らしいですが、現在、林業での生計は難しいし、初めから林業に携わろうと考えると難しいですね。しかし、林業が景観の美しさや農業に良い影響を与えるということでは、同じ考えを持つ農家は多く、仲間も増えると思います。木は野菜と違って生育するのに20年、30年という時間が必要です。自分が一生懸命育てた森が、次の世代に財産として残していけるのも素敵なことだと思います。
(3月11日取材)

石田清太郎（太美町在住、趣味 バasketボール、スノーボード、バイクなど 奥さんと子供2人の4人暮らし）

SEITAROU